
開 会 挨拶

京都外国語大学・京都外国語短期大学 学長 松田 武

京都外国語大学・京都外国語短期大学学長の松田武でございます。本日は、京都外国語大学にお越しくさいます。ありがとうございます。大学コンソーシアム京都主催の第16回FDフォーラムの会場校を代表いたしまして、心から皆様を歓迎申し上げます。

このフォーラムは、毎年、全国各地から1000名を超える方々が参加される日本で最も大きな規模のFDフォーラムであります。同時に、本フォーラムは、幅広い視野から自由闊達に議論できる貴重な機会と場を提供するものだと理解しております。このような会議を本学で開催させていただけることを大変光栄に存じます。皆様にとりまして年度末のお忙しい時期にご参加いただきましたことに対し、心より感謝申し上げますとともに、シンポジストや分科会でご報告いただく先生方、本フォーラムの企画検討委員会の先生方ならびに大学コンソーシアム京都の職員の方々にも厚く御礼を申し上げます。

本学は「言語を通して世界の平和を」という建学の精神のもと、京都に外国語学校を設立してから64年目を迎えます。現在、外国語大学は全国に7つありますが、このグローバル化した社会に外国語大学が存在する意義を考えてみますと、それは、従来の海外情報の収集に加え、世界に対して日本の情報を正しく効果的に発信していくことにあると考えております。それには、一方通行ではない双方向の交流が必須であり、そのためには高度な外国語運用力とコミュニケーション力、そして海外の人たちと共に働く才能を持つ人材が求められます。そうした人材の育成が外国語大学の今日的ミッションであり、国家的なミッションでもあります。京都は周知のとおり日本文化の中心地であり、5,000万人観光都市でもあります。本学はその京都に根付く大学として、寺社仏閣から京都人の生活様式や思考パターンに至るまで、世界でもユニークな日本文化を正しく丁寧に世界に伝えていく義務を負っています。従って、本学は、知性と品性と感性を練磨し、日本の「ソフト・パワー」の一翼として国際社会に貢献する人材、軸足を日本と外国に同時に置きな

がら二つの世界に生き、国際舞台で活躍する人材を育てていかなければならないと考えています。

さて、今回の総合テーマは「組織的FDの取り組み～FDの義務化から現在(いま)」であります。2008年4月にFDが義務化されてから、早いもので3年が経ちました。これまでのFDの経過を振り返りながら、真に大学に期待されているFDとは何なのか、改めて考え直さなければならない時期を迎えております。言い換えますと、現状をチェックし、改善に向けた行動に移す“CHECK AND ACT”の段階に入ったということです。

2011年度からは、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令が施行され、教育研究活動の状況の情報を公表することが義務化されます。また、2004年度から始まった認証評価制度は2011年度から第2周期が始まります。そこでは自己点検・評価がPDCAサイクルによって効果的に機能し、持続的な改善に結びついているかどうかの評価され、大学が何をしたか、教員が何をしたかではなく、学生がどのように成長したかが、社会から問われることになります。

もちろんこれからの前提として、建学の精神と教育目標は連動しているのか、カリキュラムの目標と授業の内容は合致しているのか、授業評価は適切に行われているのかといったことを点検する地道な作業もFDの一環として重要です。何よりも教員自身が昨日より今日、今日よりも明日、少しでも成長したい、よりよくなりたいという向上心を持ち、大学はそれに応えていかなければならないと考えています。

大学が抱える課題は山積しておりますが、まずは、このフォーラムにおいて大いに学ばせていただき、解決に向けた新たな知見を得たいと思います。

今日、明日の2日間のフォーラムにおいて新しい出会いと実り豊かな議論がありますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

開 会 挨拶

京都外国語大学外国語学部 教授
第16回FDフォーラム企画検討委員会 委員長 平山 弓月

みなさんこんにちは。FDフォーラム企画検討委員長を務める京都外国語大学の平山でございます。本日は、たいへんお忙しい中「第16回FDフォーラム」にお越し頂き誠にありがとうございます。

主催者を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

このFDフォーラムは、大学コンソーシアム京都が開催して、今回で16回目を迎えます。1995年第1回のテーマは、「知の技法」で、165名の参加がありました。その後回を重ね、今回は全国各地から900名の方々にご参加をいただいています。

その各地でのFD活動進展の中、最近のところでは、「FD活動は一部の教職員のみ任されている」という状況をよく耳にします。

2008年の、FD普及を意図した「義務化」から3年。このことばに縛られ、逆にFDの取り組みのすべてを形式的に選抜された委員に、または、「我が大学でFDと言えば○○先生」という一部の「英雄的で献身的な」先生方に委ねてしまっているという状況もままある。この現状を放置しておかないために、わたしたちは、何に手を付けなければならないでしょうか。

これまでの取り組みをふまえ、今年は、FDの活動を、「教員の個人的活動」に任せるのではなく、大学がFDを進める部署や委員会を作り、活動を計画・実施し、さらに改善を重ねて行くなど、「組織的FDの取り組み」としてとらえ直す。その方向を基本に、「キャリア教育」「e-Learning」「女子大学からの発信」など、多様な事例報告や視点に基づいて、ご参加の皆様方からの縦横な討論を深め、この課題へのアプローチを進めたいと考えております。もちろん、この間、意識し始めている「学生のために」「学生と共に」進めるFD、という視点を忘れることなく、であります。

この目標の達成に向けて、ご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。本日、明日のFDフォーラムを、わたしたちの力で、またみなさま方のお知恵と勇気とで、沸騰するシンポジウム、湧きかえる分科会、汲めども尽きぬ情報交流の場として参りましょう。

私自身が企画検討委員長として、本フォーラムを実りあるものとするよう、先頭に立って運営を進行して参りますこととお誓いいたしまして、開会のご挨拶といたします。ありがとうございました。Vive les forums!